

●小特集●



学会イベント支援

編集にあたって

角 康之 (公立はこだて未来大学)

学会には、全国大会、研究会、シンポジウムといったさまざまなイベントが存在します。学会イベントは、さまざまな背景や動機を持った参加者が一堂に会し、イベントプログラムという制約の中で各自のコンテキストをぶつけ合う場です。時間的にも空間的にも限られた制約の中で、多くの情報やコンテキストの出会いを演出する、というのは、

情報処理の恰好の対象です。情報処理の研究・開発に携わる我々は、学会イベントを、ただ利用者として参加するだけでなく、研究の対象・フィールドとして活用すべきではないでしょうか。

そうは言っても、イベントを研究の対象とすることは大変難しいです。なぜなら、イベントは一過性で、内容も参加者も常に変わり続けます。ですから、同一の条件のもとで研究成果の比較や評価を行うことができません。また、イベント参加者の多くは情報享受のために来ているわけですから、研究の被験者になってくれるわけではありません。したがって、

学会イベントを対象とする研究は、研究コミュニティの活動の変化に寄り添いながら、コミュニティメンバーのメリットを最優先にしつつ、開発・運用を行っていく必要があります。

本小特集では、そういう大変難しい研究活動に果敢に挑戦している、若手の研究者の方々に執筆をお願いしました。皆さんに共通したことは、学会イベントに一参加者として継続的に参加し続けながら、そのイベントを愛し、自分たちが幸せになるために、システム開発や運用に携わっていることです。そういう活動は尊敬に値するものですが、正直、学术论文にすることも難しいです。しかし、こういった経験こそ記録に残し、多くの方々にご覧いただくことが重要であると考えます。

今回、執筆をお願いした4件の記事は、いずれも、WISS^{☆1}と呼ばれる国内ワークショップを活動の場としています。WISSは、日本ソフトウェア科学会のインタラクティブシステムとソフトウェア研究会が主催し、年に1回開催されています。1993年に第1回目が開催され、2014年11月に浜名湖で開催されたWISS2014が第22回となります。WISSは150人前後の参加者が合宿形式で一堂に会し、シングルセッションの口頭発表、デモ発表に参加します。WISSは当初から、参加者自身が自分たちの会議のスタイルを作ること熱心で、口頭発表中のチャットシステムの導入、論文形式の検討、夜の懇親会の活性化など、さまざまな試みに挑戦しています¹⁾。

本小特集で執筆いただいた皆さんには、WISSでの比較的最近の試みを中心に、学会イベント支援の

現実や展望をご執筆いただきました。

西田健志氏は、聴講参加者を主役にするシステムの開発・運用をご紹介いただきました。具体的には、WISSの代名詞ともいえるチャットシステムや、夜の懇親会の席決めシステムといったユニークな試みもご紹介いただきました。

学会イベントの花はやはり口頭発表です。栗原一貴氏には、口頭発表のプレゼンテーションを活性化させるさまざまな試みをご紹介いただきました。プレゼンテーションが始まってしまうと発表者と聴者の間にはどうしても溝ができてしまいます。栗原氏の試みは、その溝を埋める試みと言えるでしょう。

学会イベントの醍醐味は、実際に動くシステムデモを体験しながら議論できることです。竹川佳成氏、松村耕平氏には、デモ発表の様子を取材し、実況中継するためのウェアラブルシステムの開発をご紹介いただきました。発展途上のシステムの速報です。

インターネットのおかげで、学会参加の形は遠隔参加にまで広がってきています。WISS2014では遠隔操作ロボットが導入され、出産直後で実地参加が適わなかった五十嵐悠紀氏が遠隔操作ロボットを利用して遠隔参加しました。その体験報告を執筆いただきました。

本特集では4件の記事しかご紹介できませんでしたが、さまざまな観点から、学会イベントをフィールドとした研究開発の面白さ、難しさが垣間見えたかと思います。この特集が、これからの学会を創っていく読者の皆様に、少しでも参考になったらと思います。また、少し昔の学会イベント支援の試み²⁾や、最近の脱学会的な面白い試み³⁾についても、ご覧いただけると幸いです。

参考文献

- 1) 綾塚祐二, 河口信夫: 参加者が作る会議支援システム～WISS Challenge～, コンピュータソフトウェア(日本ソフトウェア科学会誌), Vol.23, No.4, pp.76-81 (2006).
- 2) 角 康之: 学会イベント支援システム, 人工知能学会誌, Vol.18, No.6, pp.662-667 (2003).
- 3) 江渡浩一郎: ニコニコ学会βを研究してみた, 河出書房新社, (2012).

(2015年3月11日受付)

☆1 Workshop on Interactive Systems and Software,
<http://www.wiss.org/>